

第 224 号 発行日 平成 27 年 9 月 9 日

合格通信

今
月
の
名
言

習慣を自由になし得る者は人生において多くのことを為し得る。

— 三木 清 —

(『人生論ノート』)

猛暑から一転急に涼しい日が続いております。2学期がスタートし、すぐに運動会、実力テスト、駅伝と行事が有り、何かと忙しい毎日が続きましたが、さらに合唱コンクール、文化祭、期末考査があります。中3生は受験に向けてこれからが正念場です。学校の予復集プラス受験対策を行っていかねばなりません。志望校合格に向け、努力あるのみです。



模試の活用方法

事前の勉強より、事後の勉強が大事

模試を入試の「練習試合」と考えてみましょう。野球でもサッカーでも練習試合だけをいくら多くやってもうまくなりません。練習試合を通してどこが弱いのかを知り、そこを練習して強くなるわけです。守備が弱ければ守備の練習をする、走塁が弱ければ走塁を、シュートが弱ければシュートの練習をするといった弱点補強をしなければ強くならないのと同じことで、模試の結果から自分の弱点を知り、そこを重点的にできるように学習をすることが学力となり、次回の模試に生きてくるのです。

「スポーツと勉強は違うのでは」という意見もありますが、勉強と言っても脳の鍛錬、訓練です。そろばんを習うのに講義だけを聞いて上達しません。数学で方程式の解き方の講義を聞いて、直ぐ解けるようにはなりません。勉強といっても問題演習を繰り返す、暗記モノであれば覚えるまで何度も暗記作業を繰り返すといったスキルビルドがない限り、学力にはならないのです。スポーツと同じです。

ですから、模試などで結果に一喜一憂していても仕方がないことで、その結果に基づき、弱点補強こそが自分の学力につながっていくのです。まして模試のような範囲の広いものであれば、2～3週間で全範囲を復習することはほぼ不可能です。前回の結果から、自分の弱点箇所だけをピンポイントに復習するのが最も効率的です。

志望校判定については入試本番までに合格ラインを越えればよいのですから、今の時点での学力で決める必要はありません。入試まであと6カ月あります。1月末の模試で合格ラインに達するよう、頑張っていきましょう。